

3R瓦版 (11月号) 2019年

負けるな!
エコくん
作:フジコイトウ



© 2019 フジコ イトウ All Rights Reserved.

環境問題に対する心理学用語や経済学用語

現代に生きる殆どの人達は環境対策の重要性を認識していますが、取り組みが十分とは言えない面があるのも否めない事実です。ここでは、心理学用語や経済学用語から、環境への取り組みが何故進まないのか、どうしたら進んのかのヒントになると考えられる用語のいくつかを紹介したいと思います。

①マッシュマロテスト

ウォルター・ミシェルが1960年代に4歳児を対象に行った実験で、「15分間眼前の1個のマッシュマロを食べるのを我慢したら、2個あげる」と言って立ち去り、その子が我慢できるのかをみるテストで、3人のうち2人が待てずに食べてしまったということです。我慢した3人中の1人は、その後の人生で成功をおさめやすいという検証結果が出ていますが、辛抱強く環境対策に取り組むことで後年の成功に繋がることを暗示しています。

②共有地の悲劇



誰もが自由に利用可能な共有資源(出入り自由な放牧場や漁場など)の過剰摂取で資源の劣化・枯渇の危険性が、ギャレット・ハーディンの著書「共有地の悲劇」で提唱されています。家畜の過剰放牧による牧草不足や砂漠化、

漁業資源の枯渇や気候変動なども地球という共有地の悲劇であるとみなすことができます。

画像入手元: https://may2009.at.webry.info/201209/article_2.html

③世代間投資

現代世代は投資をしても得るものはなく、投資をしなくても罰せられない(罰するとすれば将来世代だが、まだ生まれていない)。したがって、現代世代には世代間の投資を実行する意欲が持てない。気候変動対策の難しさの一端を暗示しています。

④芋づる式連想法

芋づる式とは、一つのことを切っ掛けとして関連する事柄や人物が次々と出てくることや明らかになることです。実行したことや頭に浮かんだことを問題意識として書き出し、疑問文にして改善策や解決策を連想的に考えて実行に繋げることです。エコバック、冷暖房の省エネ、分別収集、不要なものを買わない、というような行為も、自身の経験や人々の行動の観察等を通じて、更なる改善策や解決策を連想して試行錯誤的に実行に移していくことは、各々ができることではないでしょうか。

RepairFactory (有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見220番地

tel: 0774-66-6254

井深 成仁